

経営比較分析表（令和5年度決算）

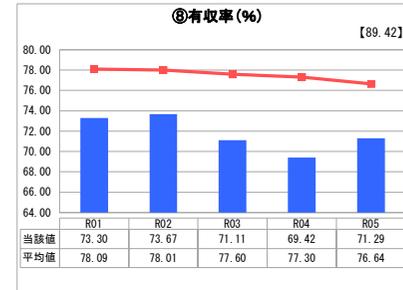
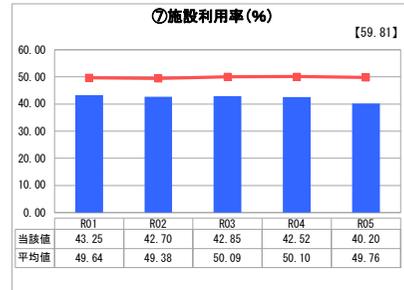
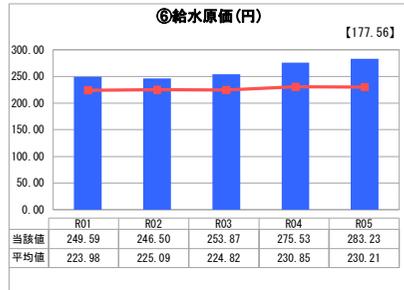
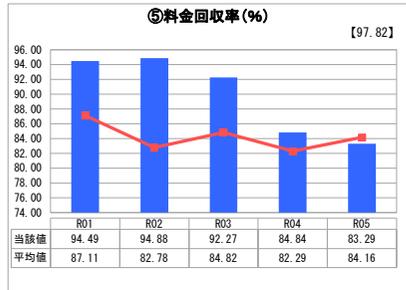
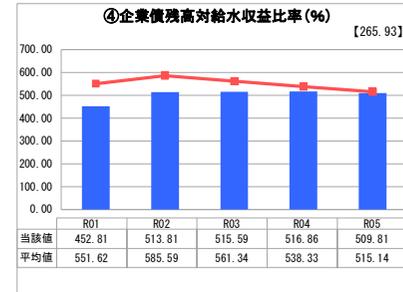
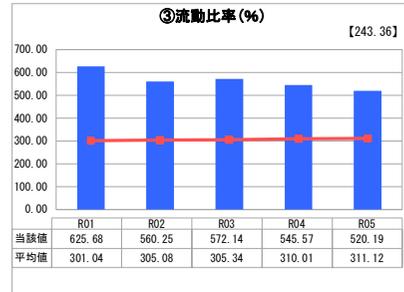
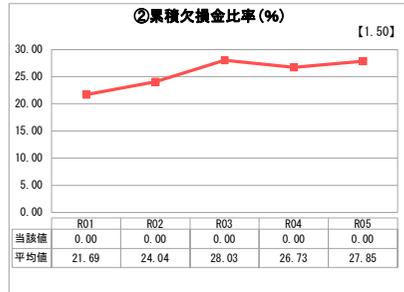
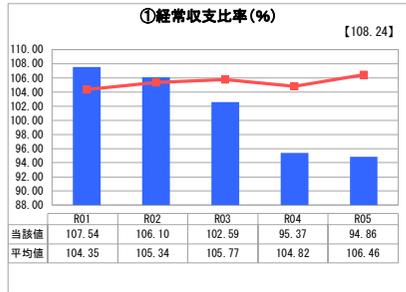
北海道 赤平市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	62.59	97.33	5,321	

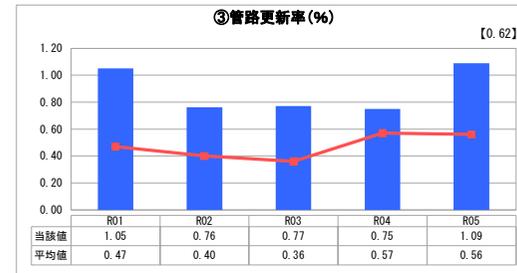
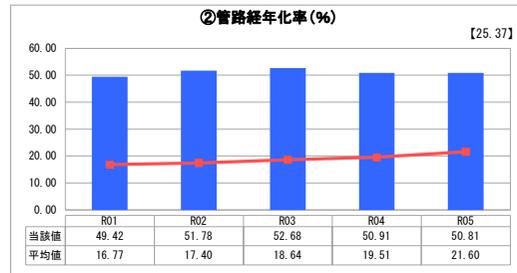
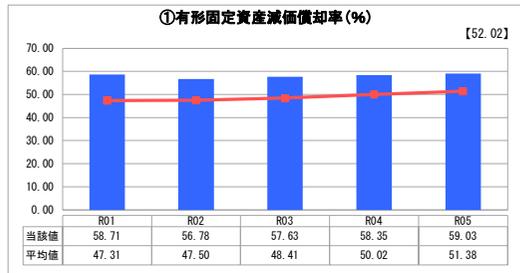
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,741	129.88	67.30
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,421	17.26	487.89

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度の赤平市水道事業については、②累積欠損比率は累積欠損金が発生していないため0%であり、③流動比率（短期債務に対する比率）は100%を超えていることから健全な状態にあります。

一方、①単年度収支が黒字であることを示す経常収支比率及び⑤料金回収率については100%を下回っていることから、費用の削減や財源確保の妥当性を検討する必要があります。

⑦施設利用率については、給水人口の減少、節水機器の普及、節水への意識向上等により使用水量が減少しており、全国平均及び類似団体平均と比較して低い状況にあります。

また、⑧有収率については、全国平均及び類似団体平均と比較して低い状況にあるため漏水調査を継続的に行い修繕し、有収率低下の抑制に努めながら管路の更新を進めていきます。

施設・管路の更新、維持には多額の費用が必要となるため、経営の効率化等により経費の削減を図り、料金改定も含め老朽化施設の有用性を検討し経営健全化に取り組んでいく必要があります。

2. 老朽化の状況について

赤平市の水道施設は、昭和50年代以前に建設されているものが多く、老朽化が進んでいる状況です。

①有形固定資産減価償却率及び②管路経年率（法定耐用年数を超えた管路延長）、③管路更新率は、全国及び類似団体平均より高い状況になっています。

今後も老朽化した施設・管路について老朽化に起因する事故の防止を行い点検や補修履歴を含め、水道施設の適切かつ効率的な更新を計画的に進めていきます。

全体総括

水道事業に置かれている現状は、人口減少に伴う料金収入の減少、燃料費等の高騰、さらには施設及び管路の老朽化など取り巻く環境は厳しい状況にあります。

この厳しい環境の中、令和2年度に策定したアセットマネジメント・経営戦略に基づく中長期的な視点に立った施設及び管路更新需要と、水道料金改定を含む財政収支の改善を実施し、引き続き健全かつ安定的な経営が図れるよう努めてまいります。